

平成25年度
宮崎市 だれもが
住みよいまちづくり賞



小規模施設【優秀賞】
ドコモショップ江平店



中・大規模施設【優秀賞】
宮崎トヨタ自動車(株)南バイパス店



小規模施設【リフォーム賞】
富吉中央自治公民館



中・大規模施設【優秀賞】
ガーデンテラス宮崎



中・大規模施設【奨励賞】
グラード錦町

小規模部門

リフォーム賞

富吉中央自治公民館



・所在地：宮崎市富吉
・主要用途：自治公民館

・所有者：下富吉自治会
・施工者：外山建設

● 講評 ●

利用者の高齢化に伴い平成24年度に宮崎市福祉のまちづくり対象施設整備補助金を活用し、バリアフリーに改修しています。玄関の上がり框部分の段差が大きいため、やむなく屋外スロープを、集会場へ上がる部分とトイレのある玄関方向に分けて設置しています。

トイレ内には広い車いす対応トイレが設置されていますが、惜しむらくはトイレ全体が男女兼用となっていることと、屋外のスロープに屋根がなかったことです。

しかしながら制約がありながらもできる限り高齢化に対応しようとする努力を評価し、リフォーム賞としました。

優秀賞

ドコモショップ江平店



・所在地：宮崎市江平西
・主要用途：携帯電話ショップ

・設計者：井手上建築事務所
・施工者：原村建築

・所有者：株永田電話

● 講評 ●

任意に車いす使用者用駐車場を出入口に一番近い位置に設けて、すぐそばにはスロープが設置されています。スロープは反対側の歩道側からも利用できるようになっています。出入口は自動ドアで、受付には車いす用カウンターがあり、聴覚障がい者用に筆談ボードを備えています。また、多機能トイレの内部は広く、洗浄便座やベビーシートが設置されています。

惜しむらくはそこが女子トイレと兼用になっていたこと。そして屋外のスロープに脱輪防止の立ち上がりがなかったことです。しかし、設備の充実度や来客者への配慮など総合的に判断して、優秀賞としました。

宮崎市だれもがすみよいまちづくり賞について

バリアフリーデザインの普及を目的に、障がい者や高齢者等を含めてだれもが利用しやすい、モデルとなるような民間建築物を表彰するために、平成20年度から実施しています。賞の選考にあたっては、高齢者や障がい者、子育て支援、建築士、理学療法士などの団体から、12名の委員で構成された「宮崎市バリアフリー検討会」において行っています。

今年度は、平成24年度に「宮崎市福祉のまちづくり条例」の整備基準に適合し、適合証の交付を受けた民間の87施設を対象に、整備基準の異なる「小規模施設部門」と「中・大規模施設部門」に分けて、第一次審査（書類選考）、第二次審査（現地選考）を経て第三次審査において各賞の選出を行いました。

● 第一次審査の様子 ●



優秀賞

宮崎トヨタ自動車(株)南バイパス店



- ・所在地：宮崎市源藤町
- ・設計者：㈱宮崎太陽建設
- ・主要用途：自動車販売
- ・施工者：㈱宮崎太陽建設
- ・所有者：宮崎トヨタ自動車㈱

● 講評 ●

出入口周辺に段差はなく車いす使用者用駐車場が設置されています。出入口は自動ドアで、トイレは出入口からわかりやすい位置にあります。男女別に車いす対応トイレが設置されており、女子用にはベビーシートとベビーチェアが設置されています。惜しむらくは、トイレの鍵や使用中の標示が小さいことが残念でした。

店舗部分を増築する際に、既存のトイレを男女別に車いす対応トイレに改修したこと。来客への対応やバリアフリーに関して意識が高いことなどが総合的に評価され、優秀賞となりました。

優秀賞

ガーデンテラス宮崎



- ・所在地：宮崎市下原町
- ・設計者：隈研吾建築都市設計事務所
- ・主要用途：結婚式場・ホテル
- ・所有者：㈱セレモニー宮崎
- ・施工者：㈱大林組九州支店

● 講評 ●

施設全体が高級感を感じさせながらも、段差解消やトイレ、授乳室等の配置などさりげない配慮がされています。また、施設内の出入口近くには受付があり、利用者の案内誘導がされています。

惜しむらくは、道路から出入口までの誘導ブロックが黄色ではなかったこと、トイレの鍵が小さくて、手の不自由な人の利用には支障があると思えたことは残念でした。しかしながら、施設の設備面及び人的な対応についての充実が評価され、優秀賞となりました。

奨励賞

グランド錦町



- ・所在地：宮崎市錦町
- ・設計者：㈱アーキ・プラン
- ・主要用途：スーパー
- ・施工者：㈱上田工業
- ・所有者：㈱タイヨー

● 講評 ●

1階の出入口近くに1台、3階に2台の車いす使用者用駐車場があります。そのほかエレベーターや多機能トイレ、授乳室などバリアフリーの設備が充実しています。

惜しむらくは、視覚障がい者誘導用のインターホンが出入口から離れた位置にあったこと、トイレのオストメイト設備が簡易タイプで水しか出なかったこと、授乳室がトイレの近くでおいが気になったことです。しかしながら、出入口に車いすを常備し、車いす使用者のための買い物用のトレーや接客対応の良さを考慮し、今回の施設づくりを今後にも生かしてもらうことを期待して、奨励賞としました。

宮崎市バリアフリー検討会委員 審査を振り返って

米村 敦子 議長

〈宮崎大学教育文化学部 教授〉



「だれもが住みよいまちづくり」に向けて、民間建築物のバリアフリーを促進する本顕彰事業の審査を私たちバリアフリー検討会が担当しています。各委員がさまざまな立場から検討しました結果、今年度も最優秀賞はなく、優秀賞3、リフォーム賞1、奨励賞1となりました。バリアフリー建築の普及に何より重要なのは、スロープや手摺り、点字ブロック、多目的トイレ等を使用する人がどのような状況にあるのかをよく考え、対応する力、やはり各建物の建設や運営に携わる人の熱意に大きく関わっていると感じています。だれもが危険や不便なく安心して外出し、自由に活動できるまちづくりはそのような熱意の積み重ねに拠るものだと思います。

桑原 靖 委員

〈NPO法人 宮崎市視覚障害者福祉会 事務局長〉



今回、初めて視覚障害者と言う当事者の立場で参加させていただきました。審査させていただく中で高齢者やそれぞれの障害者に対して全て満足とは言えないものの、安全で安心して利用できるように努力されていることはよく見受けられました。これまでに障害の有る人たちに対してはほとんどの障害者が「在宅の障害者」と言う状態だったように思いますが現在では少しでも安心して外出できるようにいるんな所でバリアフリー化が進んでおり、外出する機会も増えているように思われます。日々の努力にとっても感謝しております。将来は「一步、家を出るとそこにはいろんな障壁が有ると言うイメージ」はなくなり、安全で安心して健常者の人たちと一緒に行動できるようになることを願いたいものです。

山元 弘道 委員

〈宮崎市肢体不自由児(者)父母の会 会長〉



私たちバリアフリー検討会が目指すのは、バリアフリーな社会、つまり人に優いまちづくり。そのバリアフリーな社会を実現するには、4つの大きなバリア「物理的バリア」「制度のバリア」「文化や情報のバリア」「意識のバリア」、もっと噛み砕いて、①住まい ②ところ ③まち ④もの ⑤情報 ⑥社会 ⑦交通のバリアをクリアしていくことだと考えています。しかし、いままで検討を進める中で常にぶつかる問題が、私たちが一番始めに出来るはずの「意識のバリア」、すなわち心のバリアでした。意識のバリアは決して難しいことではなく、当たり前のマナーやエチケットを守り、障がい者を特別視するのではなく、その人の個性だと捉え、その人の目線で考えれば、意識のバリアは存在しなくなります。私もあなたも障がい者予備軍です。

日高 達郎 委員

〈社団法人 宮崎県建築士会宮崎支部 技術委員長〉



今回審査に際してバリアフリーに配慮された様々な建築物を見せて頂きました。審査の結果、優秀賞3、奨励賞1、リフォーム賞1の建物選ばれました。今年度もバリアフリーの意識がだいぶ高くなって来ていると感じる部分がありました。その反面どの建物ももう少しという意見も多く、昨年度に続いて最優秀賞は該当無しという少し残念な結果となりました。また奨励賞に関しては今後を期待しての顕彰と致しました。やはり建築に携わる私たち建築士がバリアフリーに関してもっと高い意識を持って業務に当る必要があると感じました。

永山 昌彦 副議長

〈NPO法人 障害者自立応援センター-YAH!DOみやざき 理事長〉



現地調査に向うと施工主の「お・も・て・な・し」の気持ちが建物の随所に反映されている候補がいくつかありました。法律や条例があるので仕方なくバリアフリー整備をしている候補とは一線を画します。もてなす思いや利用する人のことを考える思いが隅々に現れる建物づくりが増えていくことを切に希望します。

廣志 秀月 委員

〈社団法人 日本オストミー協会宮崎県支部 支部長代行〉



究極の排泄機能障害者であるオストメイト(人工肛門・人工膀胱保有者)の私達が社会参加促進には特別に配慮したトイレが必要です。大型施設は義務化されましたが、中小施設にはありませんので今回も一件もありませんでした。今回は大型施設で現在は設置されなくなった器具が使用されていたのには配慮が足りないと感じました。毎年配慮が足りない物件があります。障害には多種多様で個々に合わせるの大変ですが、施工・設計・施工者共最大限利用者に配慮していただきたい。

武田 禎彦 委員

〈社団法人 宮崎県理学療法士会 監事〉



リハビリテーションを進めるときのキーワードの一つとして“社会参加”があります。これは、ただ地域社会の中にあるご自宅で生活することだけでなく、地域社会という集団の中に参加していくことを指しています。身近な地域での集まりや役割を持った集団の中に参加してゆくことです。これから高齢者や障害をお持ちの方々が住んでいる身近な環境の中で、参加しやすい環境づくりの工夫が進んでいけば、「住みよいまちづくり」につながってゆくものと感じました。

土屋 良子 委員

〈NPO法人 宮崎市手をつなぐ育成会 理事長〉



大・中・小の施設が、バリアフリー化に取り組みされている工夫され努力されていると思いました。わかりやすさや利用しやすさ、また、維持管理はされているか、様々な人に考慮されているか審査はむずかしく感じました。多目的トイレは十分配慮されて造られていますが、異性(母親と息子)で利用する場合、男性・女性のどちらを利用するか、子供さんの成長とともに使いづらさを感じられています。多目的トイレが公共施設にないところもあり、そういう場所も検討する必要があると思いました。

久保 千乃 委員代理

〈NPO法人 ドロップインセンター 理事〉



初めてでしたが私は子育ての観点から見学いたしました。新築施設は大体使いやすい設備で、改築も可能な限り考えられていたように思います。しかし、単に設備を付け加えるということだけでなく、本当に必要な人が使い勝手の良いものにする、要望に真摯に耳を傾けて相手の気持ちを押し量る“お・も・て・な・し”の精神、その姿勢がとてうれしいものだと改めて感じました。また問題もあるとは思いますが、トイレに関してママ・パパどちらでも子どもを連れていけるという考えで作って頂けたら嬉しいです。

宮崎市だれもが住みよいまちづくり賞
主催：宮崎市
事務局：宮崎市都市整備部建築指導課

〒880-8505 宮崎市橘通西1丁目1番1号
TEL:0985-21-1813 FAX:0985-21-1815
E-mail:30sidou@city.miyazaki.miyazaki.jp